

## 衛星による地震電磁気観測の現状と展望 2005

### Current status and prospects of seismoelectromagnetic observation satellite, 2005

# 児玉 哲哉[1]

# Tetsuya Kodama[1]

[1] 宇宙機構・宇宙利用推本・シス技

[1] SOSED, JAXA

<http://www.eorc.nasda.go.jp/Sciences/ERSFR/>

今世紀に入りロシアが重量 50kg の小型衛星・Kompass の打ち上げに成功したものの、データリンクに不具合が発生した。その後、アメリカのベンチャー会社が 3kg の超小型衛星・Quakesat の打ち上げに成功し、サン・シメオン地震に伴うイベントの観測に成功している。

2004 年 6 月にはフランスの DEMETER が打ち上げに成功し、新潟中越地震前後のデータ取得に成功しており、12 月には地震電磁気現象の観測を目的とした機器：Variant を搭載した、ウクライナ・ロシア共同の地球観測衛星 Sich-1M が打ち上げられた。

更に今年に入り、イタリア、メキシコ及びトルコが衛星観測を行うとの情報がある。

本発表ではこれら衛星の状況について解説するとともに、現在システム技術開発部で実施中である、地震に伴う「ひのとり」プラズマデータの解析結果と、将来衛星構想である地球電磁環境観測衛星(ELMOS)について発表する。